

# 製本のススメ

Vol. 21

芸術の秋・スポーツの秋・読書の秋・食欲の秋です、食べても遊んでも楽しい季節ですね。あわただしい日常を一步外れて、紅葉をめでながら温泉なんていかがでしょう。でも、遊んでばかりはいただけませんね、しっかりとスキルアップもいたしましょう。

今回は【**刷り本は断裁しないで折る①**】お話

これは本作りに、とても大切な事なのです。印刷時の針クワエを製本でも使えば☆印刷の精度をそのまま維持できる☆という理屈です。

しかし現実には違います、何故なら用紙が四角ではなく「四角っぼい」からです。

本は四角が基本です！つまり直角がとても大切なのです。製本の機械はすべてこの直角第一に作られていますから、台形や○△形の用紙には対応していません。

印刷では、印刷機の高度な仕組みにより、直角でない用紙でも正確に刷れますが製本では、あくまでも用紙の辺に順じて加工が行われる為に、本に仕上がると見開き(絵柄)が合わない、文章全体が斜めの感じに見える等の不具合が起きます。

これらは用紙を断裁する際に起こる寸法の誤差であることが多いのです。

例えば用紙を大断する際に、包装紙のまま断裁をすると、包装紙の重なった部分の厚みが、誤差の原因になり、中の用紙に微妙な寸法の誤差が生じ、直角の出ていない用紙になります。

製本では この刷り本の調整をする為に**せっかくの針クワエさえも断裁し直角を出し直さねばなりません**。この作業には、多くの時間を取られてしまうだけでなく、完全に修正できるものではありませんので、特に絵合わせや罫線・斜線は、全てをあわせることができなくなり、良い製品にはなりません。

カラーのグラビアや、細い罫線がある時などは、一度 用紙を四方化粧しなおしてから印刷して、より、品質の高い本を作り上げて行きたいものです。



## Tea break

まだ貨幣の無かった頃は、みんな物々交換で必要なものを手に入れていました。この物々交換にはルールがあり、自分が少し多く取ったなと思ったら、相手にその分を返したそうです。つまり、お互いの交換価値を釣り合せていたのですね。「釣銭」というのは、魚釣りからでなく、この釣合いを取ると言う事から出来た言葉だそうです。何事もバランス、自分ばかり得をしてはいけません。

by (株) 井関製本